

BJP定性：

ベンス・ジョーンズが発見した特異な熱凝固性（60 で凝固混濁、100 で溶解）を示す蛋白で、白血球の1つである形質細胞で生成されます。特異な熱凝固性（60 で凝固混濁、100 で溶解）を示し、骨髄腫、マクログロブリン血症の患者の約60%で尿中に出現が見られます。

バニリルマンデル酸：VMA

バニリルマンデル酸はカテコールアミン（アドレナリン、ノルアドレナリン）の最終代謝産物として尿中に排泄されます。カテコールアミンは主に末梢神経系と副腎髄質に存在しており、褐色細胞腫や神経芽細胞腫の患者尿中に増加します。

ヘモジデリン：

ヘモジデリンは血管内での赤血球破壊亢進（溶血性貧血など）の時に尿沈渣中に見られる粗い黄褐色の顆粒でヘモグロビンの崩壊産物です

シスチン：

シスチンはアミノ酸の一種で、腎における再吸収機構に欠損のある遺伝性アミノ酸代謝疾患では尿中に正常の20～30倍も排泄されます。シスチンは比較的不溶性であることからシスチン尿症患者の腎尿管で沈殿し、シスチン結石を作ることがあります。

尿蛋白定量：

尿中に排泄される蛋白はほとんどが血漿由来のアルブミンですが、腎の障害が進むと他の蛋白質（グロブリン、ムコ蛋白など）も出現してきます。色素を使った一般的な定量では主にアルブミンに反応する試験紙による定性よりも正確な尿中蛋白量を知ることが出来ず。

尿蛋白定量/day：

尿中に排泄される蛋白量は100ml中にどれ位あるかで表すことが出来ます。しかし1回の尿量は一定ではない為1日の全尿をためて定量測定するとより正確な蛋白の定量値が得られます。

尿糖定量：

尿中に排泄される糖はほとんどが血漿由来のブドウ糖です。試験紙による定性は尿中の還元物質（ビタミンCなど）で反応が阻害される場合がありますが、ブドウ糖に特異的な酵素を作用させ発生した過酸化水素を電極を使って定量する方法は正確な尿中のブドウ糖量

を知ることが出来ます。

尿糖定量/day :

尿中に排泄されるブドウ糖量は100ml中にどれ位あるかで表すことが出来ます。しかし1回の尿量は一定ではない為1日の全尿をためて定量測定するとより正確なブドウ糖の定量値が得られます。細菌の存在下では消費されて値が下がる為注意が必要です。

尿糖負荷 :

糖尿病症状(口渇、多飲、多尿、体重減少など)があっても血糖値は正常な場合があります。糖尿病が疑われる場合は75g糖負荷試験を実施して判定します。通常尿糖負荷は血糖負荷と平行して行われます。正常人の場合は尿糖値が上昇しないか、わずかに上昇してもすぐに下がります。

人絨毛性ゴナドトロピン定量 : HCG

人絨毛性ゴナドトロピンは胎盤の絨毛で生産される性腺刺激ホルモンであり受精卵が着床すると分泌されるので妊娠かどうかの判定に用いられます。また流産、子宮外妊娠の補助診断、絨毛性疾患(胎状奇胎など)のフォローアップ、HCG産生の腫瘍マーカーとして用いられます。

エストロゲン定量 :

妊娠の進行と共に胎児と胎盤とがひとつのユニットとして働き、エストロゲン(エストリオールが大部分を占める)が大量に産生されます。故に胎児胎盤機能を評価する検査として用いられます。

尿浸透圧 :

濃淡二種の溶液が半透膜をへだてて接している時溶媒が低濃度から高濃度へ拡散しようとして生じる圧力を浸透圧といいます。人体の約60%は水分で占められ生体内の多くの代謝はこの体液中で営まれます。生体の最も重要な機能として恒常性がありますが、これは浸透圧により確保されています。生体内の水分量や腎の濃縮系など主に溶媒の異常を知ることができます。血清浸透圧と同時に測定することで体液恒常性を知ることができるため腎をはじめとする浸透圧調節系全般の機能検査として利用されています。

抗利尿ホルモン分泌過剰などで高くなり、尿崩症、副腎不全などで低くなります。